愛知教育大学教育創造開発機構紀要　vol. 5　pp. 69 ～ 76, March, 2015

養護教諭志望者と保健体育科教諭志望者の保健学習に対する意識の比較

山田 浩平*　藤原 朋香**　山崎 里紗***

*愛知教育大学養護教育講座
**伊賀市立玉滝小学校
***岩倉市立岩倉中学校

Difference of Feelings among University Students Aspiring Physical Education Teachers and Yogo Teachers toward Health Education Classes They Have Taken Before

Kohei YAMADA*,　Tomoka FUJIWARA**　and　Risa YAMAZAKI***

*Department of School Health Sciences, Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan
**Tamataki Elementary School, Iga 002-8502, Japan
***Iwakura Junior High School, Iwakura 482-0036, Japan

要　　約

養護教諭を志望する大学生148人と保健体育科教諭を志望する大学生143人を対象に無記名自記式の質問紙を用いて，1. 保健学習の重要性，2. 保健学習の実施に対する自信の有無，3. 保健学習における養護教諭と保健体育科教諭の協力の意思，4. 保健学習の実施意欲，5. 保健学習に対するイメージの5点について検討した。その結果，本研究対象者は，保健学習についての重要性，授業への協力の意思については肯定的に捉える者が多かったが，保健学習のイメージについては否定的な内容が多かった。また，授業実施に対する自信では，保健体育教諭志望者の方が養護教諭志望者に比べて有意に高いものの，その理由は安易な内容であった。さらに，単元別の意欲については養護教諭志望者と保健体育教諭志望者間で顕著な差が見られた。今後，学生が保健学習の担当者として保健知識の習得の必要性を実感できるような機会や授業を実践できるような機会を提供していくことが重要と考える。

Keywords：養護教諭志望者，保健体育科教諭志望者，保健学習

Ⅰ．緒　言

近年，食生活をはじめとした生活習慣の乱れ，生育環境や人間関係の悪化などによる心の問題，喫煙，飲酒，薬物乱用，性に関する問題など，青少年をとりまく健康問題はかつてより複雑化，深刻化してきている[1)]。平成20年に公表された中央教育審議会答申の「子どもの心身の健康を守り，安全・安心を確保するために学校全体としての取組を進めるための方策について」では，その基本的な考え方として「学校において，子どもが自らの健康をはぐくみ，安全を確保することのできる基礎的な素養を育成することが必要である」ことが掲げられた[2)]。これを受け，平成20年の学習指導要領の改訂において，個人生活における健康・安全に関する内容を重視する観点から，健康の概念や課題などの内容を明確に示すとともに，心身の発育・発達と健康，生活習慣病などの疾病の予防，保健医療制度の活用，健康と環境，傷害の防止としての安全などの内容の改善が図られた[3)]。これは，学校における保健学習や保健指導に求められる役割が一層重要になってきていることを示唆しており，特に，心身の発育がめざましい中・高校生の時期は，健康の保持増進を図るための基礎として，保健教育の内容を理解する必要がある。

中学校及び高等学校の保健教育は，基本的には保健体育科教諭が授業を行うことになっている。しかし，平成10年に教育職員免許法が一部改正され，子どもの心と体の実態を把握している養護教諭も健康に関する専門的知識や技能を保健の授業に活用できるように，

保健授業を担当できるようになった[4]。実際に，養護教諭研修事業推進委員会が実施した養護教諭の特質を生かした保健学習･保健指導についての調査では，「専門的知識や技能を盛り込んだ指導ができた」「児童生徒の健康実態や生活実態を踏まえた指導ができた」「保健室や養護教諭の活用が活発になってきた」という実態が明らかになっており[5]，養護教諭が保健室等で得た子どもたちの健康情報を基に他の教諭とは異なる切り口の授業が構成できる可能性があるといわれている[6]。

これまでの保健教育に関する研究[7)-13)]では，保健体育科教諭には養護教諭の保健授業担当に賛成する者が多いことや，保健体育科教諭の保健学習に関しての意識や関心はある程度高いものの，「教材研究のための時間が少ない」，「保健と体育の両方の担当は負担になる」という問題点が挙げられている。実際に現職の保健体育科教諭に行った保健の授業の実態調査[8]では，保健の授業時間が十分でなかったり，体育に振り替えられたり，授業研究が十分になされていないという実態が報告されている。今後はこのような研究成果を積み重ねて，保健学習を充実させていく必要があるが，先行研究では保健を専門分野とする中・高等学校保健体育科教諭や養護教諭の個々の保健学習に対する調査が散見されているものの，保健学習に対して養護教諭や保健体育科教諭がそれぞれどのような意識を持っているのかを比較した研究についてはあまり散見されない。また，両者が保健学習の単元別にどのような意識を持っているのかについて詳細に明らかにすることは，今後の保健学習の向上に繋がると考えられる。

さらに，これまでの研究には保健学習に関する意識調査において，保健学習担当予定の学生を対象とした研究は少なく，学生が保健学習に対してどのような意識を持っているのかについて明らかにすることは，今後の保健学習の向上に繋がると考えられる。筆者らは，養護教諭志望者と小学校教員志望者の保健学習に対する意識の比較を行ったが[13]，両者の間で保健学習に対する重要性や自信の有無，イメージ等で差がみられている。

そこで本研究では，養護教諭養成課程の学生と保健体育科教諭養成課程の学生を対象に，保健授業実施に対しての自信・イメージ・重要性等の観点から両者を比較し，保健学習を充実させるための基礎資料を得ることを目的とする。

Ⅱ．研究方法

1. 調査時期・対象者

2013年11月に，北海道，東京都，愛知県の養護教諭養成課程3，4年の大学生148人と，同県の保健体育科教諭養成課程3，4年の大学生143人を対象に自作の無記名式質問紙を用い，集合調査の形式で行った。調査票はその冒頭に本調査の趣旨を記載し，対象者本人が調査への協力に同意するか否かを答える回答欄を設け，これに回答した上で各質問に答えてもらうようにした。アンケート調査協力の同意が得られなかった場合には，その場で調査を打ち切るように配慮した。なお，記入漏れや重複回答があるものを除いた有効回答数は，養護教諭養成課程では120人（有効回答率81.1%），保健体育科教諭養成課程では115人（有効回答率80.4%）であった。

2. 調査内容

筆者らの先行研究[13]をもとに，質問紙は養護教諭志望者と保健体育科教諭志望者それぞれを対象としたものを作成した。

1）養護教諭志望者に対する調査内容

①基本的属性は，学年，性別，学科である。

②保健学習の重要性では「他教科より重要」，「他教科と同等」，「他教科ほど重要でない」の3件法で尋ねた。

③保健学習を実施する自信の有無では「自信がある」から「自信がない」までの4段階評定で尋ねた。また，それぞれを選択した理由を「自信がある」を選択した者は7項目から，「自信がない」を選択した者は8項目から回答を求めた。

〔自信がある理由;教科書を読めば（読ませれば）できるから，自分の生活に身近なものだから，保健の授業について大学の講義で学んだから，自分の経験から教えられることが多そうだから，小中高校時代にしっかり勉強してきたから，自分の専攻する科目だから，その他〕

〔自信がない理由；教何を教えていいか分からないから，内容が取り扱いにくいから，小中高校時代にしっかり勉強してこなかったから，小中高校時代の保健の授業がつまらなかったから，保健の授業を実施することについて考えたことがないから，保健以外の科目も含め，生徒に対して授業を行ったことがないから，その他〕

④保健体育科教諭が実施する保健学習への協力の意思では，「協力したい」～「協力したくない」までの4段階評定で尋ねた。また，それぞれを選択した理由を「協力したい」を選択した者は9項目から，「協力したくない」を選択した者は8項目から回答を求めた。

〔協力したい理由；保健に関する専門的知識を提供したいから，児童の健康実態について情報を提供したいから，授業の進め方についての助言をしたいから，保健体育科教諭にとって取り扱いにくい内容もあるから，自分の専攻科目だから，保健体育科教諭の授業の準備への負担を軽減したから，保健の授業を充実させたいから，教えるべき点について保健体

育科教諭に理解してほしいから，その他〕
〔協力したくない理由；協力する必要を感じないから，協力することが面倒だから，保健の授業に時間をかけたくないから，忙しくて保健体育科教諭と協力する時間が取れないから，授業の実施に自信がないから，保健体育科教諭に対して授業の助言をしづらいから，保健室を空けたくないから，その他〕

⑤保健学習を実施したいかについては，「行いたい」，「内容によっては行いたい」，「行いたくない」の3件法を用いた。さらに4つの単元別（中学校保健体育科保健分野；1．心身の機能の発達と心の健康，2．健康と環境，3．障害の防止，4．健康な生活と疾病の予防）に実施の意欲を「行いたい」～「行いたくない」までの4段階評定で尋ねた。

⑥保健学習に対するイメージについては，プラスのイメージ10項目，マイナスのイメージ10項目から対象者の考えに近いものすべてを選択してもらった。
〔プラスのイメージ；生活や生きていくのに必要，自分にとって身近，ビデオや写真をみて学習した，楽しかった，自分が健康になれる，など〕
〔マイナスのイメージ；教科書を読んで話を聞いているだけ，体育が雨でできないときに行う，寝ている生徒が多い，テスト前に暗記するだけ，楽しい授業が受けたかった，など〕

2）保健体育科教諭志望者に対する調査内容

調査内容は養護教諭志望者と同様，①基本的属性，②保健学習に対する重要性，③保健学習に対する自信の有無，④保健学習への協力の意志，⑤保健学習への実施意欲，⑥保健学習のイメージの6項目である。なお，④保健学習への協力の意志については，養護教諭が実施する保健学習に「協力したい」～「協力したくない」までの4段階評定で尋ねた。

3. 分析方法

統計分析には統計ソフトSPSS for Windows 16.0Jを使用し，χ^2検定，調整残差分析を行った。

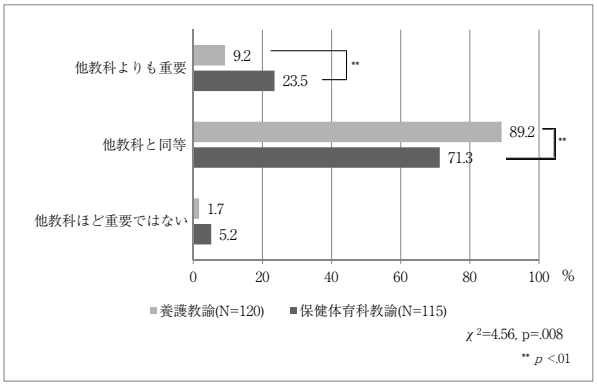

Figure 1．保健学習の重要性

Ⅲ．結　果

1. 保健学習に対する重要性

他教科との比較における保健学習の重要性についてみるとFigure 1に示すとおりであり，保健学習の重要性を「他教科と同等」とする学生は養護教諭志望者と保健体育科教諭志望者のいずれにおいても多く，養護教諭志望者が89.2%，保健体育科教諭志望者が71.3%であった。これらの結果について，対象者間の差を検討したところ有意な結果がみられ（χ^2=4.56，p=.008），さらに残差分析を行ったところ，「他教科と同等」，「他教科よりも重要」に有意差が認められた。

2. 保健学習の実施に対する自信の有無

実施に対する自信の有無は「自信がない」と回答した者は養護教諭志望者が55.8%，保健体育科教諭志望者が62.6%であり，有意差は認められなかった。

さらに，自信があると回答した者に対し，その理由を複数回答で得た結果，Table 1に示すように上位を占めたのは養護教諭志望者では「保健の授業について大学の講義で学んだから（75.5%）」，「自分の専攻する科目だから（73.6%）」，「自分の生活に身近なものだから（52.8%）」であり，保健体育科教諭志望者では「自

Table 1．自信がある理由（複数回答）

	養護教諭志望者（N=53）		保健体育教員志望者（N=43）		
	度数	%	度数	%	χ^2Value
自分の生活に身近なものだから	28	52.8	26	60.5	0.56
保健の授業について大学の講義で学んだから	40	75.5	10	23.3	25.94***
自分の経験から教えられることが多そうだから	14	26.4	25	58.1	9.91**
教科書を読めば（読ませれば）できるから	2	3.8	19	44.2	22.69***
小中高校時代にしっかり勉強してきたから	4	7.5	8	18.6	2.65
保健の授業について大学の講義で学んだから	39	73.6	9	20.5	24.83***
その他	5	9.4	3	2.6	0.19

p<.01，*p<.001

Table 2. 自信がない理由（複数回答）

	養護教諭志望者（N=67）		保健体育教員志望者（N=72）		
	度数	%	度数	%	χ^2Value
生徒に対して授業を行ったことがないから	31	46.3	17	23.6	7.88**
内容が取り扱いにくいから	26	38.8	18	25.0	3.06
自分自身の知識が不十分だから	16	23.9	60	83.3	18.40***
何を教えていいか分からないから	14	20.9	9	12.5	1.77
小中高校時代の保健の授業がつまらなかったから	13	19.4	17	23.6	0.36
授業の実施について考えたことがないから	7	10.4	11	15.3	0.72
その他	7	10.4	5	4.3	0.54

p<.01，*p<.001

分の生活に身近なものだから（60.5%）」，「自分の経験から教えられることが多そうだから（58.1%）」，「教科書を読めば（読ませれば）できるから（44.2%）」であった。有意差が認められた項目は「保健の授業について大学の講義で学んだから」「自分の経験から教えられることが多そうだから」「教科書を読めば（読ませれば）できるから」であった。

一方，保健学習の実施に対する自信の有無において自信がないと回答した者に対し，自信がない理由を複数回答で得た結果，Table 2に示すように自信がない理由として上位を占めたのは養護教諭志望者では「生徒に対して授業を行ったことがないから（46.3%）」，「内容が取り扱いにくいから（38.8%）」，「何を教えていいか分からないから（20.9%）」であり，保健体育科教諭志望者では「自分自身の知識が不十分だから（83.3%）」，「保健以外の科目も含め，生徒に対して授業を行ったことがないから（23.6%）」，「小中高校時代の保健の授業がつまらなかったから（23.6%）」であった。有意差が認められた項目は「保健以外の科目も含め，生徒に対して授業を行ったことがないから」「内容が取り扱いにくいから」であった。

3. 保健学習への協力の意志

保健の授業づくりを養護教諭もしくは保健体育科教諭と協力して行いたいか否かについては，「協力したい」と回答した者は，養護教諭志望者では98.3%で，保健体育科教諭志望者では97.3%であり，どちらの対象者も高率であった。なお，両者間には有意差は認められなかった。

さらに，保健の授業づくりを養護教諭と保健体育科教諭で協力して行いたいかにおいて，協力したいと回答した者に対し，協力したい理由を複数回答で尋ねた。その結果，Table 3に示すように協力したい理由として上位を占めたのは養護教諭志望者では「保健に関する専門知識を提供したいから（74.1%）」，「保健の授業を充実させたいから（72.4%）」，「生徒の健康実態に

Table 3. 協力したい理由（複数回答）

	養護教諭志望者（N=116）		保健体育教員志望者（N=109）		
	度数	%	度数	%	χ^2Value
保健に関する専門的知識を提供したい（得たい）から	86	74.1	96	88.1	7.06*
生徒の健康実態について情報を提供したい（得たい）から	76	65.5	52	48.1	6.89*
教えるべき点を理解したいから	38	32.8	10	9.2	18.63***
保健体育科教諭にとって取り扱いにくい内容もあるから	37	31.9	15	13.8	10.40**
自分の専攻科目だから（専攻でないから）	35	30.2	10	9.2	15.49***
授業の進め方について助言をしたい（助言を得たい）から	2	1.7	37	33.9	40.72***
保健の授業を充実させたいから（養護）	84	72.4			
保健体育科教諭の授業準備への負担を軽減したいから（養護）	15	12.9			
保健授業の実施に対して自信がないから（保健体育）			33	30.3	
1人で授業の準備をすることが面倒だから（保健体育）			4	3.7	
その他	3	2.6	4	3.7	0.21

*p<.05，**p<.01，***p<.001

ついて情報を提供したいから(65.5%)」であり，保健体育科教諭志望者では「保健に関する専門知識を得たいから（88.1%)」,「生徒の健康実態について情報を得たいから（48.1%)」,「授業の進め方について助言を得たいから（33.9%)」であった。有意差が認められたのは「保健に関する専門知識を提供したい（得たい）から」,「生徒の健康実態について情報を提供したい（得たい）から」,「教えるべき点を保健体育科教諭に理解してほしいから（何を教えるべきか分からないから)」,「保健体育科教諭にとって取り扱いにくい内容もあるから」,「自分の専攻科目だから（専攻科目でないから)」,「授業の進め方について助言をしたい（得たい）から」であった。

4. 保健学習実施の意欲

保健の授業を自分で行いたいかについては,「保健の授業は自分で行いたい」と回答した者は養護教諭志望者が20.8%，保健体育科教諭志望者が24.8%であり,「内容によっては自分で行いたい」と回答した者は養護教諭志望者が70.8%，保健体育科教諭志望者が68.1%,「保健の授業は全面的に行いたくない」と回答した者は養護教諭志望者が8.3%，保健体育科教諭志望者が7.1%であった。これらについて，対象者間の差を見たところ有意な結果は得られなかった。

次に，中学校の保健体育科保健分野である4つの単元について実施意欲を尋ねたところ，Table 4に示すとおりであった。「心身の機能の発達と心の健康」の単元においては，行いたくないと回答した者は養護教諭志望者が17.2%，保健体育科教諭志望者が37.2%,「傷害の防止」の単元は，行いたくないと回答した者は養護教諭志望者が10.9%，保健体育科教諭志望者が25.3%,「健康な生活と病気の予防」の単元は，行いたくないと回答した者は養護教諭志望者が14.3%，保健体育科教諭志望者が27.7%であり，いずれも保健体育科教諭志望者の方が有意に高かった。

一方,「健康と環境」の単元においては，行いたくないと回答した者は養護教諭志望者が44.4%，保健体育科教諭志望者が32.5%であり，両者間に有意差は認められなかった。

5. 保健学習に対するイメージ

保健学習に対するイメージは，プラスのイメージ9項目とマイナスのイメージ13項目に分類できた。保健学習のプラスのイメージで上位を占めた項目は，Table 5に示すように養護教諭志望者と保健体育科教諭志望者のいずれも,「生活や生きていくのに必要（養

Table 4. 各単元別の苦手である者の割合

	養護教諭志望者（N=120）		保健体育教員志望者（N=115）		
	度数	%	度数	%	χ^2Value
心身の機能の発達と心の健康	17	14.2	33	28.3	7.02**
健康と環境	38	31.7	28	23.9	1.75
傷害の防止	10	8.3	21	18.6	5.30*
健康な生活と病気の予防	13	10.8	23	20.4	4.04*

*p<.05，**p<.01

Table 5. 保健学習に対するプラスのイメージ（複数回答）

	養護教諭志望者（N=120）		保健体育教員志望者（N=115）		
	度数	%	度数	%	χ^2Value
生活や生きていくのに必要	81	67.5	80	69.9	0.15
自分にとって身近	59	49.6	64	55.8	0.88
ビデオや写真をみて学習した	46	39.3	39	34.5	0.57
自分と向き合える	35	29.9	34	30.1	0.03
自分が健康になれる	23	19.7	24	21.2	0.09
先生の体験談を話してくれる	18	15.4	27	23.9	2.65
実習や体験学習をした	15	12.8	20	17.7	1.06
楽しかった	13	11.1	11	9.7	0.12
調べ学習をした	8	6.8	6	5.3	0.24
プラスのイメージ　合計	298		305		

Table 6. 保健学習に対するマイナスのイメージ（複数回答）

	養護教諭志望者（N=120）		保健体育教員志望者（N=115）		
	度数	%	度数	%	χ^2Value
教科書を読んで話を聞いているだけ	68	56.4	49	42.5	4.46*
体育が雨でできないときに行う	61	51.3	65	56.6	0.66
寝ている生徒が多い	47	40.2	38	33.6	1.06
テスト前にまとめてやるもの	46	39.3	38	33.6	0.80
テスト前に暗記するだけ	45	38.5	46	40.7	0.12
他の授業より簡単	41	35.0	24	21.2	5.40*
体育の先生が面倒そうにやる	29	24.8	16	14.2	4.13*
性教育の印象が強い	28	23.9	34	30.1	1.11
面白くない	18	15.4	22	19.5	0.67
健康に悪いことばかり聞く	9	7.7	10	8.8	0.10
恥ずかしい	7	6.0	1	0.9	4.45*
特に興味はなかった	4	3.4	12	10.6	4.61*
覚えていない	2	1.7	3	2.7	0.24
マイナスのイメージ　合計	405		358		

護67.5%，保健体育69.9%)」，「自分にとって身近（養護49.6%，保健体育55.8%)」，「ビデオや写真を見て学習した（養護39.3%，保健体育34.5%)」であり，有意差は認められなかった。なお，選択された項目の合計数は養護教諭志望者298個，保健体育科教諭志望者305個であり，1人あたりのプラスイメージの数は養護教諭志望者2.48個，保健体育科教諭志望者は2.65個であり，保健体育科教諭志望者の方がやや多い結果となった。

一方，保健学習のマイナスのイメージで上位を占めたのは，Table 6に示すように養護教諭志望者では「教科書を読んで話を聞いているだけ（56.4%)」，「体育が雨でできないときに行う（51.3%)」，「寝ている生徒が多い（40.2%)」であり，保健体育科教諭志望者は「体育が雨でできないときに行う（56.6%)」，「教科書を読んで話を聞いているだけ（42.5%)」，「テスト前に暗記するだけ（40.7%)」であり，有意差は認められなかった。選択された項目の合計数は養護教諭志望者405個，保健体育科教諭志望者358個であり，1人あたりのマイナスのイメージの数は養護教諭志望者3.38個，保健体育科教諭志望者は3.11個であり，養護教諭志望者の方がやや多い結果となった。

Ⅳ. 考　察

本研究は，養護教諭志望者と保健体育科教諭志望者の保健学習に対する意識について，以下の3点から検討した。1点目は，保健学習の重要性，保健学習の実施に対する自信の有無，保健学習における養護教諭と保健体育科教諭の協力の意思の3つを検討した。2点目は「保健学習実施の意欲」として各単元における実施意欲の有無とその理由を，3点目は「保健学習に対するイメージ」から検討した。

1. 保健学習に対する重要性，自信の有無，協力の意思

まず，保健学習の重要性については，「保健学習と他教科の重要性は同等」と回答した養護教諭志望者が9割，保健体育科教諭志望者が7割であった。本研究の対象学生の多くが，他の教科と同等に重要であるとみなしている傾向が明らかとなった。その一方で，保健学習を他教科よりも重要視している者には有意差が見られ，その割合は保健体育科教諭志望者の方が多いことが明らかになった。このことから，養護教諭志望者よりも保健体育科教諭志望者の方が，保健の授業をより重視している傾向がわかり，養護教諭志望者の保健に対する意識の向上が期待される結果であった。

次に，保健学習の実施に対する自信の有無では，「自信がない」と回答した者は養護教諭志望者，保健体育科教諭志望者ともに約6割であり，有意差は認められなかった。本研究の対象学生は，保健学習の実施に対して自信がない者が半数以上を占めていることが明らかになった。「自信がない」と回答した者における「自信がない理由」で最も多かった項目は，養護教諭志望者では「保健以外の科目も含め，生徒に対して授業を行ったことがないから」であり，保健体育科教諭志望者では「自分自身の知識が不十分だから」であった。いずれも，経験不足や知識不足が原因であると考えられ，在学中に授業実践の経験を積むことや，講義の内

容を充実させることが授業の実施の自信に繋がることが推察される。

続いて，授業づくりにおける養護教諭と保健体育科教諭の協力の意思について尋ねたところ，「協力したい」と回答した者は養護教諭志望者，保健体育科教諭志望者ともに9割以上と高率であり，両者とも大半の者に協力の意思があることが明らかになった。この質問に対する協力したい理由として最も多かったのはいずれも「保健に関する専門的知識を提供したい（得たい）から」であり，7割以上を占めていた。さらに，協力したい理由について有意差が認められた項目をみると，「授業の進め方について助言をしたい（得たい）から」であった。養護教諭志望者は授業実施の自信においても経験不足を挙げており，主に授業を担当する保健体育科教諭には授業の進め方について助言しづらいと考えているが，保健体育科教諭志望者側からは，専門的立場である養護教諭の助言を求める声が多くあった。このことから，養護教諭志望者の養成段階からの授業実施機会の増加や，保健の専門家としての自覚意識の向上により，よりよい協力関係が築いていけると考えられる。この項目以外に有意差が認められた項目は，「教えるべき点を保健体育科教諭に理解してほしい（教えるべき点が分からない）から」であり，養護教諭側は保健体育科教諭に授業で教えるべき点を理解してほしいと考えていることが分かった。このことから，養護教諭は授業づくりの段階で積極的に保健体育科教諭に助言し，保健体育科教諭は教えるべき点を理解することが望ましいと考える。このことについて久保ら[14]は，保健体育科教諭志望者は保健学習を重要と考えている者の割合が高い一方で，保健知識の習得が保健学習の指導者としては不十分であることを報告しており，本研究結果と同様の傾向であった。

2. 保健学習実施の意欲

保健学習の実施に対して尋ねたところ，「保健の授業は自分で行いたい」と回答した者は養護教諭志望者，保健体育科教諭志望者ともに2割程度であり，「内容によっては行いたい」「保健の授業は全面的に行いたくない」と回答した者がそれぞれ4割であった。そのため，保健学習の実施に対しては両者ともに消極的であることが窺えた。

さらに単元別に保健学習実施の意欲についてそれぞれ調査を行った。単元別にみると，「心身の機能の発達と心の健康」「傷害の防止」「健康な生活と病気の予防」で有意差が認められた。有意差が認められた項目は，いずれも保健体育科教諭志望者の方が養護教諭志望者と比べて授業実施意欲が低いことが明らかとなった。門田[9]の先行研究でも，現職の保健体育科教諭が養護教諭の授業担当として適切な単元にこの3つを挙げており，養護教諭の介入が必要とされていると考える。一方，「健康と環境」に関しては，養護教諭志望者の実施意欲が他の単元と比べて著しく低かったため，保健体育科教諭志望者との差がなくなっていた。この単元は，他の3つの単元と比べて，養護教諭としての専門的な経験や技術を必要性が低い内容と捉えられていることが推察される。しかし，空気や飲料水の衛生的管理など養護教諭の知識が十分に発揮できる内容も含まれているため，この単元に対する養護教諭志望者側の意識の改善が必要ではないかと考える。

また，これらの単元の授業を行いたくない理由としては，いずれにおいても「保健の授業をすることに慣れていないから」，「自分自身がこの単元について勉強不足だから」などの経験不足や知識不足を原因とする理由が上位を占めていた。このことから，養成段階での保健分野に関わる教育の改善・充実の必要性が挙げられる。具体的には，模擬授業の実施，教育実習における保健学習の担当などがあり，学生が保健学習の担当者として保健知識の習得の必要性を実感できるような機会を提供していくことが重要と考える。保健学習事業推進委員会の調査[14]においても，保健学習の指導意欲が高い者は，養成課程での保健科教育法等の履修や教育実習での保健学習の指導の状況が良好であることが示されており，養成課程段階での学びや経験が大きな影響を与えていることが示唆される。

3. 保健学習に対するイメージ

保健学習に対するイメージについて尋ねたところ，保健学習に対するプラスのイメージの上位項目は，養護教諭志望者と保健体育科教諭志望者のいずれも「生活や生きていくのに必要」，「自分にとって身近」，「ビデオや写真を見て学習した」であり，いずれも有意差は認められなかった。保健学習に対するプラスのイメージは養護教諭志望者と保健体育科教諭志望者に差がないことが明らかになり，保健学習の内容と自分自身の生活を密接に考えることができるという項目の回答の割合が多かった。

一方，保健学習に対するマイナスのイメージの上位項目は，養護教諭志望者では「教科書を読んで話を聞いているだけ」，「体育が雨でできないときに行う」，「寝ている生徒が多い」であり，保健体育科教諭志望者は「体育が雨でできないときに行う」，「教科書を読んで話を聞いているだけ」，「テスト前に暗記するだけ」であった。いずれも，授業の進め方に対するマイナスのイメージが上位を占めた。プラスのイメージとマイナスのイメージの合計数は，養護教諭志望者と保健体育科教諭志望者のいずれもマイナスのイメージが上回っており，この結果は筆者12）の養護教諭志望の大学生を対象とした研究と同様の結果であった。このことから，学生は保健学習の内容を自分自身の生活と身近なものであると考えている一方で，今まで受けて

きた授業の実施方法によってマイナスのイメージを強く持っていると推察される。

Ⅴ．結　論

養護教諭を志望する大学生148人と保健体育科教諭を志望する大学生143人を対象に無記名自記式の質問紙を用いて，1．保健学習の重要性，2．保健学習の実施に対する自信の有無，3．保健学習における養護教諭と保健体育科教諭の協力の意思，4．保健学習の実施意欲，5．保健学習に対するイメージの5点について検討した。主な結果は以下の通りである。

1）保健学習の重要性ついて，「他教科よりも重要」，「他教科と同等」と回答した学生は，養護教諭志望者，保健体育科教諭志望者ともに9割以上を占めていた。
2）保健学習の実施に対する自信の有無では，「自信がない」と回答した学生は養護教諭志望者で55.8%，保健体育科教諭志望者で62.6%であり，養護教諭志望者の自信がない理由として最も多かったのは，「生徒に対して授業を行ったことがないから」であり，保健体育科教諭志望者は「自分自身の知識が不十分だから」であった。
3）保健の授業づくりにおける養護教諭志望者と保健体育科教諭志望者との協力について，協力したいと答えた学生は，養護教諭志望者，保健体育科教諭志望者共に，9割以上を占めていた。
4）保健学習の実施意欲において「内容によっては行いたい」と答えた学生は，養護教諭志望者，保健体育科教諭志望者ともに約7割を占めていた。苦手と考えている単元としては，保健体育科教諭志望者が養護教諭志望者に比べて「心身の機能の発達と心の健康」「傷害の防止」「健康な生活と疾病の予防」の単元で有意に高く，養護教諭志望者は他の単元に比べ「健康と環境」の単元を挙げる者が多かった。
5）保健学習に対するイメージについては，養護教諭志望者，保健体育科教諭志望者ともにマイナスのイメージがプラスのイメージを上回っていた。

以上のことから，本研究対象者は，保健学習についての重要性，授業への協力の意思については肯定的に捉える者が多かったが，保健学習のイメージについては否定的な内容が多かった。また，授業実施に対する自信では，保健体育教諭志望者の方が養護教諭志望者に比べて有意に高いものの，その理由は安易な内容であった。さらに，単元別の意欲については養護教諭志望者と保健体育教諭志望者間で顕著な差が見られた。今後，学生が保健学習の担当者として保健知識の習得の必要性を実感できるような機会や授業を実践できるような機会を提供していくことが重要と考える。

Ⅵ．参考文献

1）石樽清司，有木恵美（2002）小学校の「保健」授業に関する教員の意識，滋賀大学教育学部紀要教育科学，52：1-15
2）中央教育審議会答申（2008）「子どもの心身の健康を守り，安全・安心を確保するために学校全体としての取組を進めるための方策について」http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/__icsFiles/afieldfile/2009/01/14/001_4.pdf. Accessed November 15, 2014
3）文部科学省（2002）中学校学習指導要領解説，保健体育編，http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1304424.htm
4）文部科学省（1998）教育職員免許法の一部を改正する法律等の公布について http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/t19980625001/t19980625001.html. Accessed November 15, 2014
5）養護教諭研修事業推進委員会（2001）養護教諭の特質を生かした保健学習・保健指導の基本と実際，（財）日本学校保健会
6）面澤和子（2010）中学･高校教諭免許（保健）と養護教諭―健康に関する教育の専門性と専門職養成―学校保健研究，51：371-375
7）小浜明，戸野塚厚子（1995）保健の授業担当者の授業意識に関する研究，学校保健研究，36（9）：651-668
8）山田七重，植屋清見，森昭三，他（1996）中学校高等学校における「保健の授業」の実態と保健体育教諭の意義，日本体育学会大会号，47：560
9）門田新一郎（2000）中学校保健体育教師を対象とした養護教諭の保健学習担当に関する調査研究，日本公衆衛生雑誌，47（6）：530-537
10）廣原紀恵，服部恒明，植田誠治（2003）高等学校保健体育教師を対象とした養護教諭による教科「保健」担当に対する意識調査，学校保健研究，45：225-232
11）小海節美（2003）養護教諭の健康教育に関する調査研究（第2報）―養護教諭の「保健」の授業担当に対する保健体育教諭の意識―，福山市立女子短期大学紀要，29：57-65
12）山田浩平（2011）養護教諭志望者の保健学習に対する意識，東海学校保健研究，35（1）：25-32
13）山田浩平，河本祐佳（2014）小学校教員志望者と養護教諭志望者の保健学習に対する意識の比較，愛知教育大学教育創造開発機構紀要，4：105-113
13）久保元芳，穴沢幸平（2012）保健体育教師の養成段階にある学生の保健知識と保健学習への意識―国立大学法人U大学の場合―，宇都宮大学教育学部 教育実践総合センター紀要，35：213-221
14）保健学習事業推進委員会（2013）平成25年度報告書「中学校の保健学習を着実に推進するために」，http://www.gakkohoken.jp/book/ebook/ebook_H250010/H250010.pdf, Accessed November 15, 2014

（2014年11月20日受理）